吹上小

主体的に課題に向かい、共に学び合う子どもの育成

～解決意欲を引き出す「学習課題」の設定と集団解決の場の工夫を通して～

（３年計画の１年次）

校　長　　川村　洋

１　研究主題について

本校では、教育目標として「気づき、考え、行動する子」、努力目標として「進んで学ぶ子」を掲げ、自ら課題を見つけ、解決に向けて主体的に学習に取り組む子どもを育てることを目指している。学習指導要領の目標及び内容をふまえ、子どもの解決意欲を引き出す「学習課題」を設定するとともに、授業の展開では児童の考えを広げたり、深めたりする「集団解決の場の工夫」を設定することで、主体的に課題に向かい、学び合う子どもを育てることができると考え、研究主題を設定した。

昨年度は、３年計画３年次として「主体的に学び、共に高め合う子どもの育成～児童の意欲を引き出す『学習課題』と学びを確かなものにする『振り返り』を意識した授業づくり～」という研究主題のもと、教材のしかけや発問の工夫をしたことで、教師が意図する「授業のねらい」と子どもが「解決したい」という思いが一致したタイミングで学習課題を設定することができた。また、授業の終末に、子どもが「わかった、できた、身に付いた」と実感したことを、板書やノート、評価問題や発表などで振り返り、学びを確かなものにする授業づくりを目指し、授業改善を行った。その結果、学習で分かったことや学習に対する意欲などについて、様々なパターン（文章、数値、観点）での振り返りを提示したことで、子どもが自分の学びを振り返ることができるようになった。

今年度は、これまで国語科を研究教科として取り組んできた成果を他教科へと広げ、子どもと子ども、先生と子どもとの対話の中から、解決意欲を高める実践例を蓄積していきたい。また、考えをよりよいものに練り上げ、考えを広げ深める集団解決の場の工夫について研究を進めることで、子どもが主体的に学び合い、「わかった、できた、楽しい」と実感できる授業の実現を目指していくことができると考える。

２　研究のねらい

主体的に課題に向かい、共に学び合う子どもを育てるために、解決意欲を引き出す「学習課題」の設定の仕方と考えを広げ深める集団解決の場の工夫を、授業実践を通して明らかにする。

３　研究仮説

子どもの意欲を引き出す「学習課題」を設定し、考えを広げ深める集団解決の場の工夫をすることにより、主体的に課題に向かい、共に学び合う子どもを育成することができる。

４　研究内容

(1) 子どもの解決意欲を引き出す「学習課題」設定の工夫

(2) 子どもの考えを広げ深める「集団解決の場」の工夫

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究等

月	日	授　業　研　究・実　践　発　表	授業の概要
６	１	授業公開（算数） 特別支援学級　授業者　元木　欣也 阿部　千絵　　寺田　晴美	個々の課題に応じた段階的な個別指導と、問題づくりをしながら解き合う場を設けることで意欲的に学習に取り組むことができた。
６	２９	第１回授業研究（国語） 「アップとルーズで伝える」 ４年３組　授業者　上平　陽子	「削除した段落がどこに入るのだろうか」と問うことで、削除した段落の役割に関わる言葉や文に着目することができた。ネームプレートを活用して自分の立場を明確にし、３人組の話合いを設けたことで考えを深めることができた。
１１	２	第２回実践発表（国語） 「じどう車くらべ」 １年２組　授業者　福士　珠未	文を並び替える活動を通して、クレーン車の「しごと」と「つくり」の文を見付けることができた。ジャムボードを活用して本文を並び替え、並び替えた理由について話型を提示してペアの話合いを設けたことで自分の考えを伝えることができた。
１２	７	第３回実践発表（高学年） 家庭科：６年　熊野　淑 国　語：６年　杉本　佳子 社　会：５年　三浦　真由美	・ジャムボードを活用しての考えの共有や深め合い ・意見の出し合いで終わらない共有場面の手立てとしてのジャムボードの活用 【集団解決の場の工夫】 個人で打ち込む→グループで共有→全体で共有→グループで再考

(2) 一般研修

月	日	内　容
６	６	問題解決的な授業づくり（集団解決の場の工夫） 講師　八戸市教育委員会　主任指導主事　福田　秀貴　氏
６	２２	考える議論する道徳の授業について 講師　八戸市教育委員会　主任指導主事　大野　勉　氏
１１	１６	スクーリング活用について 本校　生徒指導主任　横内　裕史

６　研究の成果

(1) 国語以外の他教科においても児童の意欲を引き出す学習課題を吟味し教師の働きかけを工夫して掲示したことで、より深く考えようとする意欲が高まった。
(2) ネームプレートやジャムボードを活用して自分の立場を明確にし、ペアや少人数での話合いを設けたことで、自分の考えを伝えたり比べたりしながら考えを深めることができた。
(3) まとめの整合性がとれた学習課題を設定する授業が日常化されるようになった。

７　研究の課題

(1) 児童の実態把握や教科の特性を生かし、児童が自ら解きたくなる学習課題を設定できるよう研究を進めていきたい。
(2) 児童の考えを広げ、深めるペアや少人数での話合い活動の場の工夫をしていきたい。

（記入者　　上平　陽子）